

# 技術士二次試験の受験準備

## 技術部門・専門科目の選択

# 受験部門と専門分野の選択

- まず、**業務経歴の棚おろし**を行います。
- これは職位ではなく、**業務の内容**で**技術士にふさわしいもの**を、期間別に書き出す作業です。
- このとき、その業務が技術士法の技術士の定義にある「**科学技術に関する高等の専門的応用能力を必要とする事項**についての、**計画、研究、設計、分析、試験、評価**(の6つ)または**これらに関する指導の業務**(のどれか)」でなければなりません。
- しかも、**自分が主体的に取り組んだもの**でなければなりません。
- その際、担当分野が狭くてもいいので、自分が担当した業務を記述します。
- 以上は、**経験論文のテーマ**としては、必須の条件です。
- **業務経歴7年以上必要**という場合は、すべてがこのレベルであれば問題ありませんが、そこまで達しなくても、受験しようとする部門に関連する業務であると判断される程度の内容であればよいのです。

# 棚おろしの例 (計画、研究、設計、分析、試験、評価、これらの指導 という言葉が含まれている必要がある)

No	時 期	年 数	職 位	業 務	私の立場	備考
1	平成18年7月～平成19年12月	1年6ヶ月	〇〇課長	□□に関する調査実施の指導	指導責任者	〇名のチームで実施
2						
3	平成15年6月～平成16年5月	1年0ヶ月	〇〇係長	□□に関する計画立案の指導	チームリーダー	〇名のチームで実施
4						
5						
6	平成7年4月～平成7年10月	7ヶ月	〇〇係り主任	△△の設計	チームリーダー	〇名のチームで実施
7						
8	平成3年11月～平成4年5月	0年7ヶ月	〇〇係り担当者	〇〇に関する調査結果の分析・評価と報告書作成	担当責任者	
9	平成2年7月～平成3年10月	1年4ヶ月	〇〇係り担当者	〇〇に関する調査の実施推進のうち△に関する部分	チームリーダー	
10	平成2年4月～平成2年6月	0年3ヶ月	〇〇係り担当者	〇〇に関する調査計画の立案と試行のうち△に関する部分	主担当者	
	合計	12年3ヶ月			その業務に関しては 主導的立場であることが必要	

これは提出が必要な業務経歴書の原稿にもなります

## 棚おろし結果の分析、評価

1. 全体で7年以上あることを確認、願書審査のとき削られる場合を考慮して10年前後まで用意しておくことが望ましい。新しい経験の方が価値があるので新しいものから挙げます。
2. 書き出した内容のうち、自分が最も自信をもって、「私の専門」といえる分野を探し出します。面接試験時の経験論文の対象に直接関連する分野であることが必要です。
3. その際、技術士のどの専門部門及び専門科目がふさわしいかを、技術士法関連告示の技術部門の表から選びます。  
たとえば、経営工学部門では、工場計画、生産計画、品質管理、包装及び物流、プロジェクトエンジニアリングのどれか一つです。  
環境部門では、環境保全計画、環境測定、自然環境保全の三つから一つ選びます。

### 3. 続き

**電気電子部門**では、  
発送配変電、電気応用、電子応用、情報通信、電気設備の5分野  
のどれか一つです。

**機械部門**では、機械加工及び加工機、原動機、精密機械、  
・・・、機械設備の10分野から一つです。

**原子力・放射線部門**では、  
原子力・放射線の一つです。

4. 専門科目の選定の際に、「選択科目の内容」が技術士法告示に  
定められていますので、その内容と合致しなければなりません。  
たとえば、**経営工学の「品質管理」**であれば、次のいずれか  
品質管理(標準化及び信頼性管理を含む)に関する事項  
品質保証及び品質システムに関する事項

#### 4. 続き

「プロジェクトエンジニアリング」であれば、プロジェクトに係る調査、開発、設計、調達、製作、建設その他の段階における技術、日程、費用及び組織の管理に関する事項のどれに該当するかを検討しなければなりません。このとき、たとえば「プロジェクトに係る設計技術」などのようにいずれかに該当していればいいのです。電気電子の「発送配変電」であれば、発送配変電に係る計画及び運営、発電設備、送電設備、配電設備、変電設備その他の発送配変電に関する事項のどれに該当するかを検討しなければなりません。

5.当然、過去の試験問題を調べて、選択した科目の試験問題が自分の専門分野に合致しているかどうかを調べて評価のうえ、決めるのがよいでしょう。